

令和7年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

校訓	「誠の心にしがたい信念を貫く」		重点目標	「SEIKEI PRIDE」(誇りをもって卒業できる生徒) (1) 学力と生活力の基盤づくり ・一年次においては、学力と生活力の基盤づくりを進める。 ・通信端末による視聴覚教材を活用し、学習習慣の確立、基礎学力の定着、学習到達度の向上を目指す。 (2) 個性を尊重した進路指導の推進 ・二年次においては、一人一人の個性を大事にし、個性を尊重した進路指導を推進する。 ・自分の進むべき道について、自ら探究し、正しく判断し、よりよく表現や行動ができる。 (3) 社会で活躍できる人づくり ・三年次においては、社会で活躍するために「社会人となる」にふさわしい人材の育成。 ・目標を持って、自らの未来を切り開いていけるようにする。	学校法人 誠恵学院 誠恵高等学校 校長 鈴木 珠美	
	校訓の「誠の心にしがたい信念を貫く」のもとに、実践力のある生徒の育成を図る。				総合評価	(評価) A (評価文) 社会人として必要な生活力を身につけさせるため、高校3年間で学力やしあや規制、社会との関わり方を指導している・生徒の行動が良き方向に変容していくよう、日々を尽力したい。
学校教育目標	「新たな時代を豊かに生きる人材の育成」 (1) 社会人としての必須スキルを身に付けさせる。 (2) マルチなコミュニケーション力を身に付けさせる。 (3) 彩り豊かな教育課程を編成し、臨機応変な対応力を身に付けさせる。					
重点目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
1. 学力の充実を図る	①自ら学習に取り組み、予習・復習の習慣化に力を入れる。学力の定着と学習意欲の高揚を図る。	予習・復習の習慣化、学力の定着化を図るための手立ては(小テスト等)適切であったか。	B	授業では基礎知識の理解と定着を重視し、小テストや Monoxer、スタディサプリで学習習慣を促した。課題に取り組んだ生徒は理解が深まったが、全員への習慣化や個別対応は不十分だった。	A	ICTの活用は、学習習慣定着に不可欠である。手軽なツールを駆使し、学習への動機付けと継続を促すことが期待される。タブレット学習への不安や混乱にも配慮しつつ、理解度向上を実感した生徒を参考に、粘り強い取り組みを支援することが肝要である。
	②充実した指導計画のもとに教科指導を行い、多読、繰り返し学習などにより、「わかりやすく」「魅力ある」学習を展開する。	多読や繰り返し学習、また、「わかりやすく」「魅力ある」授業を行うことができたか。	A	授業では生徒の理解や苦手意識を考慮し、振り返りや板書、音読、問題演習など多様な方法で指導した。ICT教材やプリントも活用し、基礎知識の定着や理解度向上を図ったが、抽象概念の習得には課題が残った。今後は小テストや繰り返し演習を増やし、授業の偏りをなくすことで、全体の学習定着をさらに高めたい。	A	ICT教材指導は、生徒の興味を引く内容を選び、展開することが大切である。しかし、それに傾倒せず、ICTと実際に「書く」指導を組み合わせ、問題演習と復習を通じて苦手克服の支援を継続的に行って欲しい。
	③補助教材として「スタディサプリ」・「Monoxer」を活用し、自学自習による学力の向上を目指す。	「スタディサプリ」・「Monoxer」を活用した学習に目標を持たせ、意欲的に取り組ませることによって、基礎学力を向上させることができたか。	B	今年度は Monoxer やスタディサプリの活用に教員間で差があり、十分に展開できなかった。昼学習や一部教科では成果も見られたが、基礎学力向上の基準設定や支援、運用方法の共有が課題である。来年度は目的を明確にし、計画的に活用を進めたい。	A	ICT教材活用は、教員間の差を埋め、得意教員を参考に展開して欲しい。また、Monoxer/スタサブ併用の混乱回避のため、どちらかに絞ることも肝要である。
	④目的意識を持って学習に参加できるようにする。漢字検定、英語検定、数学検定及び情報各種検定、その他検定試験に挑戦し、資格取得者を増やす。	目標を持って学習に取り組ませ、興味・関心・意欲等を高め、成果を上げることができたか。	B	就職・進学を見据え、HRや授業で各種検定の意義を伝え受験を促した。英検や情報処理技能検定では一定の成果が見られた一方、受験者が少ない検定も多く、周知や個別の声掛けが必要である。今後は有用性を具体的に示し、取得者増加を目指したい。	A	社会で役立つ資格について、生徒への分かりやすい説明と、自主的な挑戦を促す指導が重要である。英検3級以上のヒアリングや学校検定の実施は有益であり、奨励金制度などの報酬で意欲を喚起することも必要である。

重点目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
1. 学力の充実を図る	⑤個に応じた指導、習熟度等に対応した授業の工夫・改善により、分かりやすい授業を行う。	校内研修や各教科部会等での研修を通して、学習指導法の改善に努めることができたか。	A	少人数や特性に応じた個別指導を軸に、教科部会や研修で情報共有と授業改善を重ねてきた。実技では具体例提示や TT 体制で対応し、合同授業など新たな試みも成果を上げた。一方、長欠者や理解が遅れる生徒への対応、TT 縮小後の体制整備が課題であり、今後も連携と研鑽を通して柔軟な授業づくりを進めていきたい。	A	様々な指導方法を学び、改善を続ける姿勢は素晴らしい。今後も柔軟な授業作りが期待される。教室に入れない生徒や学習遅延への対応、登校できない生徒へのサポート体制は、誠恵の強みとして維持すべきである。
2. 日々の生活の充実を図る	①自己を大切に、他人への思いやりを持った責任ある行動をとる。生徒との意見交換を通して、生徒を育てる。自らの意志と責任で行動できるようにする。	全教育活動を通して個に応じた指導を進め、また、カウンセリングマインドで生徒に接し、生徒の心を育てる教育が実践できたか。	A	常的な挨拶や面談、傾聴を通して生徒理解に努め、主体性や思いやりを育む指導を行った。進路支援や行事運営でも生徒主体の活動を促し成果を上げた。一方で、個別対応と全体指導の両立、不登校傾向や繰り返し指導が必要な生徒への組織的支援体制の強化が不足しているため、充実化を図りたい。	A	日常生活での挨拶・コミュニケーションは良好である。不登校生徒のフォロー強化には、一層の努力が不可欠である。保護者面談やカウンセリングを通じた相談機会の増加は、生徒の本心を引き出し、積極的な支援に繋がる。これらの取り組みは、継続して行われることが望ましい。
	②生徒の良い点を伸ばし、改めるべきことは改めさせてやる気を育てる。	生徒ひとりひとりに改めるべきことを自覚させ、良さを見出し、意欲の向上につなげることができたか。	A	生徒の良い点を積極的に褒め、改善点は理解させる形で指導し、自己肯定感や意欲向上に努めた。面談や授業、行事を通じて個別対応を重視し、社会性や主体性の育成を図った。一方で、改善点の定着や統一的指導の不足、特性や行動の差異への対応が課題であり、組織的支援や継続的フォローが今後の改善点である。	A	生徒を客観的に見守り、ポジティブな指導を心がけることが重要である。自己肯定感を高め、個を尊重し成長を支援する姿勢は素晴らしい。強みと弱みを理解させる指導を継続し、自己理解を深める必要がある。
	③挨拶・言葉遣い・服装等を正し、遅刻・欠席の防止、清掃の指導を徹底する。教職員は倫理を重んじ、自己試練を含め厳格なる手本を示し、生徒の範となるよう努める。	教師として厳粛なる倫理観のもと生徒に範を示し、遅刻・欠席を減らす指導や、適切な挨拶、言葉遣い、服装等の生活指導を、厳しくまた温かく進めることができたか。	B	挨拶・言葉遣い・服装の模範を示し、遅刻・欠席や生活習慣の改善に日々声掛けや面談を通じて指導した。清掃やホームルームでの観察も行き、個別対応や三者面談で意識改革を促したものの、欠席・遅刻の完全改善や服装指導の定着は課題であり、今後も継続的な工夫と指導の強化が必要である。	A	服装・言葉遣い指導は反発を招く恐れがある。しかし、厳格な指導が不可欠である。社会性を育む上で、服装指導は重要である。生徒理解を促すため、温かい指導を継続する。柔軟性も考慮しつつ、時代に合わせた指導方法を模索することが求められる。
	④社会に出て認められる人間になるよう自らを伸ばし、他とともに切磋琢磨する。社会貢献の気持ちを育てる。	授業・諸活動の体験等を通して、ボランティア精神や社会貢献の気持ちを高めることができたか。	B	生徒に先を見据えた行動や社会貢献の意識を促す指導を行い、ボランティアや行事、授業を通して主体性や協働の経験を積ませた。文化祭や地域活動で実践的な社会貢献の機会を提供できた一方、参加生徒に限られ、授業内での意識付けや不参加者への指導が不十分であった。今後は全体への展開が必要である。	A	ボランティア活動やイベント参加などの対外活動を積極的に促し、社会貢献を体感させる機会を与えることは有意義である。生徒全員の主体性向上は容易ではないが、普段参加しない生徒が参加したいと思えるように工夫を重ね、参加のハードルを下げることも重要である。
	⑤生徒指導上のことについて、報告・連絡・相談を徹底し、生徒の指導すべき点は同一歩調で対応し、その場で正し、職員の連携を図る。細心の注意をもって生徒・保護者との信頼関係の構築に努める。	生徒指導上のことについて、報告・連絡・相談を適切に行い、保護者との連携のもと全校体制での対応ができたか。	A	学年主任や副主任、担任と密に連携し、報告・連絡・相談を徹底することで、生徒指導や問題行動への迅速対応、保護者との信頼関係構築に努めた。学年内で情報共有は概ね機能したが、家庭訪問や一部指導の統一性、全校体制での歩調合わせには課題があり、今後は生徒指導のロードマップ整備と継続的な連携強化が求められる。	A	問題発生時はもちろん、生徒の小さい変化にも早期に対処する必要がある。保護者と教員間の情報共有は、生徒への適切な対応に不可欠であることから、些細な情報であっても積極的に共有することが重要である。

重点 目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
3. 社会に貢献する態度と能力を育てる	①社会人となるにふさわしい健康管理を身につける。	生徒自らが進んで規律正しい生活、健康の保持・増進等に努めることができる指導を適切に行い、その成果をあげることができたか。	B	生徒の健康管理や生活習慣の改善に取り組んだ。朝や帰りのホームルームで感染症予防や規則正しい生活、睡眠・食事・運動の重要性を呼びかけ、欠席・遅刻の記録や声かけを通じて改善を図った。保護者との連絡や家庭訪問も行い、一部の生徒では改善が見られたが、夜更かしや欠席が続く生徒もおり、全体への定着には課題が残った。またインフルエンザによる学級閉鎖も複数出してしまったため、学年全体で統一した対応を進めていきたい。	A	生活習慣改善は困難だが、生徒の関心事項から睡眠や食事の重要性を伝え、健康管理指導を通して、社会人としての責任を自覚させることが重要である。インフルエンザ等の感染者数などの情報は、予防意識を高める上で有効である。家庭との情報共有も積極的にを行うようにして欲しい。
	②目標を持って自らの未来を切り拓いていく。	個性に応じて進路が決定できるようにするため、一般的な教養を高め、専門的な技能の習得に努めさせることができたか。	B	1・2年生を対象に進路意識の醸成と基礎教養の習得を意識して指導した。進路面談やHR、探究活動を通して「今やるべきこと」を共有し、自己分析や小論文、一般教養(Excel・Wordなど)の学習を促した。外部講師や資格取得の勧奨、情報提供も行った。一部の生徒で資格取得や学習習慣の向上が見られたが、全体への浸透やモチベーションの低い生徒への働きかけは課題として残る。	A	目標設定が困難な生徒には、様々な挑戦を促し、進む道を探さなければならない。進路指導では、外部講師の話や機会を複数回設け、主体的な学びを促進することが重要である。目標や目的は変化する可能性を考慮し、生徒に寄り添った指導を継続して欲しい。
	③「社会に必要とされる人材の条件」を理解させ、人生を豊かにできるよう指導する。進路指導計画の充実を図り、保護者・生徒との相談に応ずる。	進路指導を計画的に進め、資料提供や進路相談を適切に行い、進学・就職指導に留まらず生き方指導につなげることができたか。	B	進路面談や二者・三者面談を通じ、生徒の希望進路や進学・就職の方向性を確認し、必要な手続きや準備の助言を行った。オープンキャンパスや進路相談会への参加を促し、保護者とも情報共有を徹底した。生徒主体の行動を引き出す指導や生活習慣の定着も意識したが、未決定の生徒への働きかけや生き方指導の充実には至らなかった。	B	画的な進路指導と保護者との情報共有は徹底されている。今後は1年次から先輩の声を聞く機会を設け、進路を意識させるなど、3年生までの目標をイメージさせ、進路未決定者の減少を目指して欲しい。サタデーラボの取り組みも継続して欲しい。
	④進学コース、普通コースの指導を充実させ、国立大学、有名私立大学への進学を増やす。	進学希望者への学習支援を行い、学習環境を整え、受験への対応ができる指導を進め、成果を上げることができたか。	B	進学希望の生徒に対し、模擬試験や共通テストの過去問演習、課題ノートや小論文指導、面接練習などを通じた個別受験支援を実施した。また学習環境整備や土曜講座の開催も行った。オープンキャンパス参加や保護者への情報提供も行い、主体的な進学意識を促したが、国公立大学志望や共通テスト対策、受験意識の早期定着には課題が残った。	B	進学希望生徒へのフォローアップは素晴らしい。コース間の隔たりに配慮し、個々の状況に応じた支援が行われている。高いレベルの大学を目指す生徒には、より早期からの進路サポートを実施すると良い。
	⑤就職指導では、企業訪問など本校の実績を更に高めるよう努力する。	就職希望者の求職意欲を高め、企業訪問を実施し、就職内定率を高めることができたか。	B	進路面談や授業内でのアドバイスを通じて就職希望者の意識向上に努めた。Handy 進路指導室や求人票を活用して企業研究や面接準備の支援を行い、求職意欲の醸成を図った。卒業生の体験談や模擬試験・企業調べを通して社会人意識を促す指導も実施し、就職先未定の生徒への働きかけや内定後のフォローを徹底した。更に充実したものにするため、今後は3年間を見据えた進路指導マップの整備や、実践的指導の機会拡大を図りたい。	A	Handy 進路指導室などのシステムを活用し、教員負担を軽減しながら多くの求人情報を提供していた。今後は就職体験を積極的に計画し、職業理解の機会を増やして生徒の就職への興味関心を高めると良い。